

〔論文〕

教養としての被服教育を現代化するためのおしゃれ教育学(4)

——おしゃれ教育カリキュラムの提案——

松 本 浩 司

名古屋学院大学経済学部

要 旨

教養としての被服教育を現代化するために、その課題を整理するとともに、新たなあり方としてのおしゃれ教育を提案することを目的とした本研究において、(1) (『名古屋学院大学論集 社会科学篇』第52巻第3号所収) で被服教育の概況を整理し、現代化が求められている背景を論じたうえで、おしゃれ教育の概要を提案し、(2) (同第52巻第4号所収) でおしゃれ教育の観点から日本の教科書における記述を検討し、(3) (同第53巻第1号所収) でおしゃれに関する主要な情報源としてのファッション雑誌の内容を分析した。本稿では、本研究の総括として、おしゃれ教育のカリキュラムを提案した。

キーワード：家庭科，被服教育，おしゃれ，よそおい，ファッション

“Dressing Smartly” Education for Modernization of Clothing Education as General Education (Part 4): A Proposal for the Curriculum

Koji MATSUMOTO

Faculty of Economics
Nagoya Gakuin University

* 本稿は、2014年度名古屋学院大学研究奨励金による成果の一部である。

本稿の目的

教養としての被服教育を現代化するために、その課題を整理するとともに、新たなあり方としてのおしゃれ教育を提案することを目的とした本研究において、(1) (『名古屋学院大学論集社会科学篇』第52巻第3号所収) で被服教育の概況を整理し、現代化が求められている背景を論じたうえで、おしゃれ教育の概要を提案し、(2) (同第52巻第4号所収) でおしゃれ教育の観点から日本の教科書における記述を検討し、(3) (同第53巻第1号所収) でおしゃれに関する主要な情報源としてのファッション雑誌の内容を分析した(以下、前稿1、前稿2、前稿3とそれぞれ記す)。

本稿では、本研究の総括として、前稿1～3の知見をふまえて、おしゃれ教育のカリキュラムを提案する。

凡例

- ・目標は、前稿1に示したおしゃれ教育の概要に沿って、児童生徒が身につけるべき能力として記述する。現行学習指導要領の規定とは必ずしも対応しない。ただし、指導の要点は、前稿2で指摘した教科書の改善点に対応するように記述した。
- ・本稿において、衣服とは四肢を含む胴体部を覆うもの、被服とは衣服を含め身体を覆うものを指す。
- ・必要に応じ、日本の教科書(前稿2での表記に従う)、日本の副読本・米国の教科書(引用文献末尾のリストに示したとおり〔 〕で示す)を参考にする。
- ・授業で学習を進めていく過程において、既習内容との関連について適切に言及する。
- ・インターネットの活用を前提とする(参照するURLや検索で用いる語をQで示す)。本稿におけるインターネットの出典は、すべて2016年6月現在のものである。
- ・教科書あるいは副読本を想定して、一部の単元については教示文の例を示す。
- ・学習活動の例を示した。そこには明示しないが、表現活動、実習・実験、課題探究、グループ・ディスカッション、プレゼンテーションなどの、いわゆるアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。
- ・よそおいに関する能力の発達過程は、若干の先行研究があるものの、信頼に足る知見が少なく、ほとんど明らかにされていない。そのため、本稿では学習順序や学年配当をほとんど整理できていない。今後の課題である。
- ・よそおいに関する児童生徒と教師との世代間ギャップに注意する。先行研究で明らかにされているように、教師は、児童生徒のおしゃれを大人への反抗や不良行為とみなすが、児童生徒にそのような認識はほとんどない。大久保・斉藤(2014)は、中学生と教師への質問紙調査から、中学生がメイクやヘアアレンジなど外見に手を加えることを「おしゃれ」とし、楽しいという理由でおしゃれをするのに対して、教師は「おしゃれ=身だしなみ」とのみ捉える傾向があると指摘する。浜島(2006)も、若者における染髪と道徳・規範意識の高低とは関連がないこ

とを若者への質問紙調査から実証している。

A. 機能

目標

1. 以下に挙げる被服の機能を理解する。
 - ア) 生理的機能（体温調節，身体防護，運動性）
 - イ) 社会的機能（容儀，社会的標識）
 - ウ) 文明的機能（心理的，美的表現，仮装・扮装）
2. よそおいにおいて，TPOに応じて，すべての機能をバランスよく取り入れることの重要性を理解する。

指導の要点

（目標1）

- ・ア) については，教科書で扱われている内容で差し支えない。
- ・イ) の理解を通じて，コーデにおいても必要な，よそおいに対する他者からの視点を獲得することの重要性を理解させる。
- ・ウ) は，児童生徒におけるおしゃれへの高い関心（前稿1）をふまえ，生理的・社会的機能と等しく扱われる必要がある。教科書ではこの扱いが不十分であるから（前稿2），適切な教材を用いて補足する。
- ・ウ) における心理的機能については，心理の反映，心理的意味づけ（例：魔除け），意識の規制（例：正装による改まった気分になる）に言及する（家基304の125参照）。また，人生においておしゃれがもつ積極的意義（前稿1）とも関連させる（Hでも扱う）。
- ・ウ) における美的表現については，被服そのものがもつ審美性，および体型補整機能に言及する。後者については，Bでも扱う。
- ・多くの教科書で記述のある自己表現機能を説明する際は，外見における他者との差異化（社会的標識のひとつ），心理の反映，美的表現を伴うことに言及する。
- ・下着の機能についても，生理的機能だけでなく，文明化機能（とりわけ，心理的機能や体型補整機能）も等しく取り上げる。
- ・多様な社会・文化におけるよそおいについては，多くの中学校・高校教科書で既に扱われているが，それぞれのよそおいを比較することを通して，それらにおいてどのように被服の機能が現出しているのかを理解させる。

（目標2）

- ・TPOについて，教科書には具体的場面と関連させた記述が少ないので（前稿2），補充する解説を行う。また，生活場面によって重視される機能が異なることにも言及する。
- ・特定の機能が著しく不足するよそおいの場合に起こりうる具体的な問題に言及する。児童生徒

にとって身近な問題を取り上げる。そのうち、おしゃれ障害はGで詳しく扱う。

教示文の例

おしゃれには、センスが必要と言われます。その要素のひとつは、機能のバランスです。衣服には、さまざまな機能があります。(機能の詳細は省略。家基304が参考になる。)

よそおいにおいては、それらの機能のバランスをうまく保つことが必要です。それができないと、他者からの印象を悪くしたり、おしゃれ障害になってしまったりします。

学習活動の例

- ・さまざまな場面における自らのよそおいを1～2週間記録させる。その記録を基に、機能のバランスが考えられているかを評価させる(同様の課題として、家基302の129)。

備考

- ・目標1における機能の分類は、北山(2000)による。
- ・教示文の例において、センスをバランス感覚と捉える視点は、[i] 62による。

B. 衣服のつくりと構成要素

目標

1. 衣服の基本要素に関わる、以下に挙げる概念とその役割を理解する。
 - ア) シルエット
 - イ) デティール・デザイン
 - ウ) 色・柄
 - エ) 素材
2. ゆとりを理解する。
3. 洋服と和服における構成の違いとそれぞれの特徴を理解する。

指導の要点

- ・目標のそれぞれについて、さまざまな被服の実物を比較させたり、実際に着装させたりすることを通じて体験的に理解させる。

(目標1)

- ・衣服の基本要素は、重要な基礎知識であり、単独かつ被服教育における早期に扱うべきである。教科書では、コーデに関する記述で間接的に扱われている場合がほとんどであり(前稿2)、適切な教材を用いて補足する。
- ・ア) は、体型補整やゆとりと関連させて理解させる。
- ・イ) は、シルエットとともに、衣服の形に関する概念であり、児童生徒がそれらを混同しない

ように注意する（前稿2参照）。

- ・ウ)のうち色については、色相・トーンなどの関連する概念や、色彩の多様性を理解させる。高校教科書の内容で概ね差し支えないが、実際の被服を見たり、組み合わせたり、当てる光の色・強さを変えたりする実体験による理解を促す。また、Dで扱われる退色や色落ちとの関連で、繊維の染色に言及する。家庭722の163にあるように、繊維製品の製造過程に位置づけて扱われることが望ましい。
- ・ウ)のうち柄については、中学校教科書の内容で概ね差し支えない。
- ・エ)については、高校「家庭基礎」教科書の内容で概ね差し支えないが、前稿2で指摘した問題点に留意する。具体的には、繊維の種類とその特徴（手入れ・着心地の観点を含む）、織物（三原組織）および編物（経編・緯編）の組織とその特徴を扱う。その際、児童生徒の衣生活と関連させたり、実験させたりして、理解を容易にするように努める（前稿2）。また、編物がニットと同義であることにも言及する。

（目標2）

- ・高校「家庭総合」・「生活デザイン」以外では扱っていない教科書があるので、適切な教材を用いて補足する（前稿2）。
- ・生理的機能から見たゆとりの必要性だけでなく、文明的機能（主に美的表現）から見たシルエットとの関連も理解させる。

（目標3）

- ・和服の立体構成と洋服の平面構成との違い、そのメリット・デメリットや、生活様式との関連を中心に理解させる。高校「家庭総合」教科書の内容で概ねよい。ただし、人体との適合性について、立体構成は個々の着用者の体型、平面構成は多様な着用者の体型との適合性であることに注意する（この点について曖昧な記述が当該教科書に散見される）。特に立体構成の既製服では、少数のサイズに類型化して生産されており、オーダーメイドに比べて、その適合性が失われやすい点にも注意を促す。このことは、Fでも既製服における特徴のひとつとして扱う。

教示文の例（目標1について）

衣服は、シルエット、ディテール・デザイン、色・柄、素材という基本要素からなっています。

シルエットは、衣服の輪郭を指します。着装したときの輪郭、すなわち、体型のラインの見え方を指すこともあります。したがって、シルエットを上手に用いれば、体型を補整することもできます。誰しも、自分の体型に自信のある、あるいはない部分がありますから、それを強調したり、目立たなくしたりすることに役立ちます。また、ゆとりの量によっても、シルエットは異なるものになります。

シルエットに対して、ディテール・デザインは、襟、袖、ポケット、プリーツなど、細部のデザインを指します。色・柄、素材とともに、それらの組み合わせによって、衣服の印象が変化します。また、それらの視覚効果によって、シルエットの見え方を変化させることもできます。

素材は、衣服の印象に影響を与える質感をもつだけでなく、感触、吸水性、速乾性、透湿性、

通気性、伸縮性などによって、衣服の生理的機能を主に担います。それらの性質は、繊維や組織の種類によって異なります。

(色・柄の説明は省略)

学習活動の例

- さまざまな衣服を着用して、ゆとりの量を調べる。その際、ゆとりを手でつかませたり、シルエットの見え方や動きやすさを比較させたりする。
- TシャツとYシャツとを実物で比較させる。それらの伸縮性や着方の違いから、それらの性質を理解させる(家基302 [=家総302] の134 [192])。
- 布の性質を実験によって体験的に理解させる。家庭531の76に同様の課題があるが、中学校・高校教科書に示される繊維の種類・特徴と関連させながら扱う。
- 不要な洋服の縫い目をほどいて、どのようなパーツからできているかを調べる。

C. コーデ

目標

1. コーデにおける以下の観点を獲得し、おしゃれなコーデを実際にできる。
 - ア) 自らの身体的特徴との調和
 - イ) 自らの人格的特徴との調和
 - ウ) 衣服の機能におけるバランス
 - エ) 全体的印象
 - オ) 他者からの視点

指導の要点

- 指導要領や同解説で「個性を生かす着用」(中学校)や「自己を表現する着装」(高校「家庭基礎」・「生活デザイン」)を扱うことになっており、実生活で実践できる水準で扱う。前稿1で述べたように、個性的で自分に似合うコーデの方法を知りたいという児童生徒のニーズは高い(中川ら1989)ので、それに応える必要がある。
- 前稿2・3で指摘したように、以下の点について教科書の記述が不十分であり、かつファッション雑誌でも明確な記述が少ないことから、適切な教材を用いて補う。コーデの全体的印象についての具体的な判断基準や観点。全体的印象に衣服以外の要素を含むこと。素材やシルエットの観点。主に色や素材による季節感の演出。被服と自分との調和という観点。他者からの視点。
- 教科書におけるコーデの図は、イラストが多く、写真が少ないので(前稿2)、ファッション雑誌などを追加教材として利用するとよい。
- 被服の実物を用いて実習することを基本とし、イラストや文章による方法を補助的に用いる。実物に多く接することを通じて、イメージを形成させるためである。

- ・ア) については、自分の体型の特徴を理解させるとともに、以下の事柄を主に扱う。
 - ①皮膚色との調和 パーソナルカラーを扱う。教科書に言及はないので、副読本〔(d) 87, (f) 61, (i) 63〕やインターネット資料を活用する(Ｑ パーソナルカラー)。
 - ②被服の体型補整機能を活かしたコーデ 体型を隠すためにゆったりめのコーデや被服で覆うことが必ずしも有効でないこと、着やせは、体型に合わない小さいサイズを着ることではなく、シルエット、色・柄、ディテール・デザインによる視覚効果によって可能になることに言及する。〔c〕 76や〔d〕 冒頭挟み込み参照。
- ・イ) について、被服の仮装・扮装機能を通して、いまの自分だけでなく、なりたい自分も表現することに言及する。また、色・柄、ディテール・デザインは、人格的特徴の見え方にも影響を与えることを理解させる。
- ・ア) およびイ) について、自らの身体的・人格的特徴を客観化する学習課題に取り組ませる。前者の方法のひとつとして、採寸を取り扱ってもよい。なお、採寸は、被服製作をせず、既製服中心の衣生活を営む場合は、試着を推奨することで足りるので(F参照)、必須としない。
- ・ウ) については、A参照。加えて、生理的機能の観点から、ゆとりが過不足なくあること(着用する場面を想定し、実際に身体を動かして確認すること)、着心地のよさ、脱着のしやすさに注意するように促す。
- ・エ) について、全体的印象とは以下の点を指す。
 - ①衣服だけでなく、バッグ・帽子・アクセサリなどの小物や化粧、ヘアスタイルを含むこと
小物・アウターなどは、一日の生活のなかで脱着することがあるので、いずれの場合も考える必要があることに言及する。
 - ②シルエットのライン(上衣と下衣とのバランス) 男性<http://ta-kaka.com/2015/11/06/taikeikaba/>(近年の流行である細身のシルエットとしてY・I・Aラインを紹介)。女性<http://allabout.co.jp/gm/gc/191893/>(3つの体型に合わせてI・X・Aラインを紹介)。
 - ③色・柄や素材の質感におけるアイテム同士の調和 特に色については、代表的な配色方法(Ｑ <http://iro-color.com/episode/color-combinations-of-clothes.html>)を取り上げたり、自分のもっている被服や身の回りのものの配色を調べさせたりする。
 - ④主に色や素材の質感による季節との調和(季節感の演出)
 - ⑤下着が透けていないこと 透けやすい上着のときは肌の色に近い下着を着用する。
- ・オ) では、他者から見て似合うコーデや、よそおいで表現した個性が他者にどのように解釈されているかを理解させる。その際、さまざまな世代(児童生徒相互、教師、家族、地域住民、社会人など)による批評を通して、体験的に理解させる。
- ・特にア) およびオ) について、自我に対する認識や他者からの視点の獲得は、思春期以降のアイデンティティや社会性の発達に依存するため、児童生徒の発達の程度を見定めて適切な時期に扱う。例えば、日本家庭科教育学会による児童生徒への質問紙調査(2001年)では、服選びで気に入ることとして格好良く見えることを選択した者が50%を超えるのは、女子では小学校6年生であるが、男子では高校2年生である(小林ら 2004)。他者からの視点を獲得す

る時期に性差があることがわかる。

学習活動の例

- ・四季それぞれの場面を設定して、実際に着装してコーデを行う。
- ・現在と将来の自分をイメージして、よそおいでどんな自分を表現したいかを考えさせる。
- ・自宅で手持ちの被服からなるべく多くのコーデを考えさせて、スマートフォン等で写真を撮影させてくる。また、その写真を批評させる。
- ・自分の身体で好きのところと嫌いのところを書き出し、他者からの印象と比較させる。
- ・パーソナルカラーを児童生徒同士で判定し合い、クラスの分布と日本人全体の分布（平良木ら2004）とを比較する。
- ・多様な色・柄、ディテール・デザインのそれぞれが、どのような印象を与えるかを比較したり、議論したりする。
- ・身近な他世代の人びとのおしゃれ観についてインタビューし、児童生徒世代のそれと比較する。
- ・コーデのポイントを意識しながら、新聞紙で着装し、ファッションショーを行う。
- ・クラスメイトが着られそうな不要な服や他の人が着てもよい服を持ち寄り、実物を見たり着たりしながらコーデを考える（同様の課題：家基307の120）。持ち寄った服は、その他の單元における学習や復習にも使う。学習後、不要な服は児童生徒同士で交換する。

備考

- ・コーデに関する一般書籍において、指導の要点に挙げた内容が掲載され、教材として活用可能なものとして、Gunn and Maloney (2007), 七江 (2009), 鳥居 (2012), 澤木 (2013), 曾根 (2014), 山崎(2014)がある。いずれも女性向けであるが、男性にも応用できる内容が多く含まれている。

D. 手入れと保管

目標

1. 手入れや洗濯の必要性を理解する。
2. 取り扱い表示記号やタグの表示を理解し、適切な手入れや洗濯の方法を選択することができる。
3. 手入れに関する以下の知識・技能を身につける。
 - ア) ブラシかけ
 - イ) アイロンかけ
 - ウ) ほころび直し
 - エ) ボタンつけ・スナップつけ
 - オ) しみ抜き
4. 洗濯に関する以下の知識・技能を身につける。
 - ア) 電気洗濯機による洗濯の方法

- イ) 洗剤および柔軟剤、漂白剤の役割とその利用
 - ウ) 手洗いによる洗濯の方法
 - エ) 被服の特徴に応じた洗濯物の干し方
 - オ) 商用洗濯の利用
5. 保管と収納に関する以下の知識・技能を身につける。
- ア) 収納空間（たんすやクローゼット、押し入れ、靴箱）の効果的な利用法
 - イ) 防虫・除湿・遮光・整形など、保管と収納における留意点とその対策法
 - ウ) 主に不適切な保管方法による被服の事故

指導の要点

（目標1）

- ・中学校教科書に充実した記述があるので、それをを用いる。

（目標2）

- ・JIS L0001に定められた表示記号を扱う。必要に応じて取捨選択してもよいが、目標2・3の学習に関連する記号を扱い忘れることのないように注意する。
- ・タグの表示について、ここでは手入れや洗濯における注意事項のみを扱う。その他はFで扱う。

（目標3）

- ・中学校教科書に充実した記述があるので、それをを用いる。ただし、口頭での説明だけでなく、それぞれについて実習を行う。なお、イ)に関連して、形状記憶素材や失敗例（熱による縮み・焦げ）にも言及する。

（目標4）

- ・ア)については、充実した記述がある家庭722のように扱う。取り扱い表示記号を含むタグの確認、色落ち、痛みやすい衣料の取り扱いに言及する。特に取り扱い表示記号は、教科書において異なるページに記載されていることが多いため、扱う際に相互に関連づける。また、電気洗濯機のしくみを理解させることによって、洗濯によって被服が傷むことも理解させる。
- ・ア)に関連して、必要に応じて、洗濯乾燥機におけるドラム式とタテ型との違いに言及する（<http://panasonic.jp/wash/select/index.html>）。
- ・イ)に関連して、黒ずみや黄ばみについても、実例（の写真）やその原因を取り上げる。また、多くの教科書で洗剤の過剰利用への注意があるが、日本石鹼洗剤工業会洗たく科学専門委員会（2015）の調査によれば、節約志向などの理由により、洗剤を少なめに使う人が2割程度いる。過剰使用についても同様に注意を促す。
- ・ウ)については、小学校教科書にある方法ではなく、取り扱い表示記号で手洗いが指示された衣料の一般的な手洗い方法を扱う。
- ・エ)については、〔d〕89のように、さまざまな具体的な方法を扱う。
- ・オ)について、商用洗濯の種類（ランドリー、ドライ、ウェット）と、クリーニング店では主にドライクリーニングを扱っていることを明示する。また、取り扱い表示記号でドライクリー

ニングが指示された衣料を家庭で洗濯できる中性洗剤があること、ただしそれはドライクリーニングではないことにも言及する。

(目標5)

- ・ア) については、衣服のたたみ方やたんすの効果的な使い方〔h〕81)に加えて、以下の点に言及する。見えないものは着なくなるので、当面着用するものはそのすべてが見えるように収納すること。衣替えを効果的に行い、当面着用しないものは別に収納することで、限られた空間を効果的に用いること。前稿2で示したように、クローゼットを利用する場合も多いので、その収納例を示すこと〔a〕79参照)。その他、〔i〕65は衣替えのポイントを詳細に列挙しており、参考になる。また、必要に応じて、被服収納に役立つ便利グッズを取り上げる(♀衣服収納 便利グッズ)。
- ・イ) は、高校教科書の内容で概ね差し支えないが、乾燥剤・防虫剤を利用することについては小学校・中学校でも扱うようにする。
- ・ウ) については、イ)の必要性を理解させるために、実際の失敗例(虫食い、カビ、日光による退色、型くずれ)を実物(の写真)とともに示し、失敗の原因と結果とを関連させて理解させる。

学習活動の例

- ・素材の特徴と取り扱い表示記号との関連性(どのような素材にどの取り扱い表示記号がつけられているのか)を考えさせる。
- ・家庭で収納・保管を実践し、写真を撮影させてくる。

備考

- ・ミシンは、普及率の推移を考慮し(前稿1)、選択的な取り扱いでよい。
- ・手縫い(手入れにおいて針縫いが必要なものを含む)は、児童生徒の手指の巧緻性を考慮し、中学2年生以降に扱う(前稿1)。
- ・手縫いやミシンに関することについては、授業で扱うかどうかに関わらず、教科書や副読本には掲載しておく。
- ・被服の修繕については、専門店(リフォーム店)の利用にも言及することが望ましい。
- ・柔軟剤の芳香についての問題に必要に応じて言及する。

E. 被服計画

目標

1. 被服計画の重要性と手順を理解する。
2. 被服計画の立案において有用となる以下の概念を用いて、被服購入あるいは製作・補修と費用・時間・労力とのバランスを考え、実践することができる。

- ア) トレードオフ
- イ) コストパフォーマンス

指導の要点

- ・被服計画は、手持ちの被服を整理・点検することから始まるので、Dの学習を先に終えておくことが望ましい。

（目標1）

- ・中学校教科書に概ね記述されているように、必要以上に被服を持つと、購入や手入れ、保管などで金銭的・空間的・労力的な無駄が生じるため、被服計画が重要であることを理解させる。
- ・被服計画の手順とは、①手持ちの被服を整理し、一覧表を作成する、②用途やコーデ、着用可否、補修・作り替えの要否、必要性の是非などの観点から一覧表を検討する、③費用や時間、労力、資源の有効活用（H参照）の観点から、補充・補修・処分等を検討する。
- ・手持ちの被服から新しいコーデを考えることの必要性（〔x〕302）に言及する。出かける前の慌ただしい時間ではなく、時間に余裕のあるときに取り組むことを推奨する。

（目標2）

- ・これらの概念は、消費生活など他の分野でも有用な考え方であるから、家庭科全体を通してくり返し学ぶことが望ましい。また、Fでも扱う。
- ・それぞれの概念について、具体的な事例あるいはシミュレーションに則して理解させる。

学習活動の例

- ・実際に自宅で被服計画を行う。プリント等を用いて、被服計画の成果を可視化し、授業で児童生徒相互に検討し合う。

備考

- ・被服計画のリストについて、〔x〕304には、行に服の種類、列に場面、着用可否、補修・作り替えの要否、必要性の是非、価格、計画からなる表があり、参考になる。
- ・コラムとして断捨離を扱うことも有益である。

F. 既制服の購入

目標

1. 既制服の特徴を理解する。
 - ア) 同一被服におけるサイズの画一性
 - イ) ブランド等によるサイズの多様性
2. 既制服の購入における以下のポイントを理解する。
 - ア) タグの表示（素材、生産国、手入れや洗濯の方法など）を確認する

- イ) 被服計画を通して手持ちの被服を事前に確認し、それとの組み合わせを考える
 - ウ) 品質を点検する
 - エ) その商品の手入れに必要な労力をかけられるかを考える
 - オ) 友人等一緒に行った人や信頼のおける店員の意見を参考にする
 - カ) 店頭飾りにあるマネキンのコーデを参考にする
 - キ) お気に入りのブランドを見つける
 - ク) 店頭にある商品や手持ちの被服で実際にコーデをつくってみる
 - ケ) 脱着しやすい服装で出かけ、可能な限り試着する
 - コ) 照明が異なる複数の箇所で、商品の色を確認する
 - サ) 自分で手直しすることの可能性を考える
 - シ) トレードオフ
 - ス) コストパフォーマンス
 - セ) 迷ったときは、その場で決断せず、時間をおいて再考する
3. 店頭で購入するうえでのマナーや留意すべきことを理解する。
- ア) 品物を丁寧に扱う
 - イ) 店員に対して横柄にしない、他の客に迷惑をかけない
 - ウ) 商品の写真撮影は、店員の許可を得てから行う
4. インターネットを含む通信販売で被服を購入するうえで留意すべきことを理解する。
5. 流行の性質を理解し、流行を上手に取り入れた既製の購入やよそおいができる。

指導の要点

(目標1)

- それぞれについて、具体例を挙げたり、実物を比較したりするなどして、児童生徒が衣生活で直面する問題と関連させて理解させる。

(目標2)

- 以下の記述は、被服に限らず商品一般の購入における心理の一般的な傾向を表している。必要に応じて言及する。「決断したときも、使用し始めてからもずっと満足感を持続できれば成功である。(中略)最終決断の前に、少しだけ時間をおく。それで迷うようなら延期する。(中略)最後の決め手は、自分で手入れをしていく気持ちが出るかどうか」([c] 77)。「買った直後はそのものにたいいて満足できないものだと思っておくとよい。しかし、たいいてそれはすぐに満足に変わる」([y] 406)。
- 古着店の利用にも言及する ([c] 77)。
- 手持ちの被服を管理・把握する機能や、欲しい商品と手持ちの被服とのコーデを提案する機能を有するスマートフォンアプリ(その効果を検証した研究として、野口ら 2014)があるので、必要に応じてその活用に関及する。
- 家庭科における消費生活分野や消費者教育(文部科学省 2016)と適切に関連づける。

教養としての被服教育を現代化するためのおしゅれ教育学（4）

- ・ア) については、高校教科書が扱う水準で概ね差し支えないが、前稿2で述べた問題点も散見されるので、注意して用いる。
- ・イ) については、組み合わせたい手持ちの被服を一緒に持っていく（鳥居 2012）、あるいは写真に撮っておく、ヘアスタイルや靴にも留意するなどを含む。
- ・ウ) については、中学校教科書に概ね記載されているとおり、素材の特徴、汚れ・染めむらの有無、付属品の頑強さ、縫製やボタンつけの仕上がり、丈の補正の可否、予備のボタンの有無などをその観点として取り上げる。
- ・キ) は、同じブランドの商品同士は、組み合わせやすいように作られているためである。
- ・ク) について、手持ちの被服やコーデを考慮しないと、似たような被服ばかり買ってしまう原因となるので注意を促す。
- ・ケ) について、既制服の特徴（目標1）をふまえて、サイズ表示は目安として用い、試着を重視すべきであることに言及する。また、試着のポイントは、コーデのそれ（C参照）と同じであるから、必要に応じて復習する。その際、体型の変化（特に思春期における身体的成長の著しさ）も考慮すべきことに言及する。
- ・シ)・ス) については、E参照。

（目標3）

- ・ア) について、自分が買わなければ、他者が買うことを想像させる。
- ・イ) について、「お客様は神様」という言葉があるが、神様は慈悲深いものであるから、その言葉でもって、横柄に振る舞うことは誤りである。クレームを入れる場合も同様である。そもそも、その言葉を言い出したとされる三波春夫は、演者と聴衆との関係において芸事への自らの姿勢に対してその言葉を用いたのであり、「お客様」が商店や飲食店などの客を指すのではないという（三波 2009）。

（目標4）

- ・前稿2で議論したとおり、インターネットによる衣料通販は、今後増加する傾向が見られるので、その注意点を取り扱う。店舗の信頼性など、通信販売利用上の一般的な注意に加えて、試着ができないことや色・サイズが確認しづらいことなどの、被服の購入に特有の注意点を上げる。教科書や副読本においてコラムとしての扱いでよい。

（目標5）

- ・流行の性質として、流行が作られる過程とともに、流行しているものが必ずしも自分に合うとは限らないこと（家基307 [=家総304] の125 [151]）に言及する。
- ・流行において、美の観点だけでなく、社会・文化的要因（例えば、生活・労働環境の変化や女性の社会進出）も関わることについても理解を促す。例として、コルセットなどを取り上げるとよい。
- ・教科書では、流行で変化する基本要素として、そのうちのいくつかしか取り上げていないものが多いが（前稿2）、すべての基本要素にわたるものであることに注意する。
- ・流行服を取り入れるだけでなく、一般的により長く着ることができると定番服の活用（流行服と

のミックスコードを含む)にも言及する。

学習活動の例

- ・ 児童生徒で被服を持ち寄って、サイズの多様性を実際に確かめさせる。
- ・ 店頭での購入・試着について、ロールプレイングを行う。
- ・ 副読本〔b〕58-9,〔e〕138-9)やインターネットなどに掲載されている、過去における流行の実例を複数収集し、その変化の特徴や要因を分析させる。

備考

- ・ 既製服の購入は、手持ちの被服との組み合わせが必要なので、Eを先に終えておくことが望ましい。
- ・ 高校教科書にあるJISによるサイズ表示は、法的強制力はないので詳細に扱わず、既製服におけるサイズ表示の多様性と試着の重要性を理解させることに重点をおく。
- ・ 購入時のポイントについて、中学校・高校教科書のほか、〔y〕404・406,〔x〕310(サ)を参照した。
- ・ ファストファッションを念頭に、環境や資源に関する問題との関連で、既製服の生産過程を理解させることについては、Hで扱う。
- ・ 流行については、一部の副読本のほか、城ら(2014)が日本における明治以降の流行ファッションをイラストつきで紹介しており、教材として活用できる。

G. 着衣による事故・障害

目標

1. おしゃれ障害や着衣による事故について理解を深め、身体的ダメージを少なくし安全なよそおいのあり方を考えることができる。

指導の要点

- ・ おしゃれ障害については、以下に挙げる、児童生徒と関わりの深いものを中心に扱う。化粧、染毛・脱色、カラーコンタクト、ピアス等による金属アレルギー、つけ爪、外反母趾、厚底靴・ヒールの高い靴、衣服圧、身体を冷やす服装、まつ毛エクステンション(☞国民生活センター報道発表資料http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20150604_1.pdf)。特に、化粧・染毛については、化学物質を身につけていることを自覚させる。
- ・ 靴については、おしゃれ障害との関連で、〔e〕142や〔g〕89にあるような、よい靴を選ぶポイントを扱うとよい。
- ・ 着衣に関する事故については、着衣着火、着衣の巻き込み、樹脂製サンダルのエスカレーター巻き込まれ事故(☞製品評価技術基盤機構報告書<http://www.nite.go.jp/data/000004576.pdf>)などを扱う。特に着衣着火については、それへの対処法も扱う。総務省消防庁年少者の防火教育

推進方策検討委員会（1998）による年少者の防火教育カリキュラム案は、着衣着火の対処法を、安全な避難に次いで教育すべき優先順位が高いものとしている。

- ・女性の瘦身願望を取り上げ、女性の身体は20歳半ばまで締まっていくこと（Qワコール人間科学研究所ホームページ<http://www.wacoal-science.com/ageing/>）に言及し、不必要なダイエットに注意を促す。また、Cにおいてやせて見えるコーデのあり方を考えさせることも必要に応じて行う。

教示文の例

私たちの身の回りには、おしゃれだけれども、身体にとって害を引き起こすことのある被服や化粧品（ネイルアートやカラーコンタクトを含む）があります。被服や化粧品による身体的障害を「おしゃれ障害」といいます。その障害の程度には個人差がありますが、一時的なものだけでなく、長期にわたって残るものもあります。思春期の身体は、変化が著しく不安定であり、それだけ成人よりもおしゃれ障害が生じやすくなっています。

自分自身の身体とは、一生向き合っていかななくてはなりません。自分の身体における特徴をよく知り、かわいい・かっこいいだけでなく、生理的機能をはじめとした被服の多様な機能をバランスよく取り入れましょう。

学習活動の例

- ・アレルギーなどの自らの体質を調べて、まとめさせる。
- ・おしゃれ障害の例を参考に、日頃のよそおいを見直し、今後のよそおいのあり方を考えさせる。

備考

- ・おしゃれ障害について、岡村編（2003）は、具体的な症例を写真つきで紹介しており、教材として活用できる。

H. おしゃれリテラシーの育成

目標

1. おしゃれリテラシーを涵養する。例えば、以下の事柄を扱う。
 - ア) 生活におけるおしゃれがもつ積極的意義
 - イ) ユニバーサルファッション
 - ウ) ライフステージとよそおいとの関係
 - エ) よそおいに関する歴史的・哲学的な理解
 - オ) 被服生産の現状（ファストファッションや環境への負荷を含む）
 - カ) 資源としての被服の有効活用（いわゆる資源の3R）
 - キ) 広告・ファッション雑誌など、メディア情報との上手なつきあい方

指導の要点

- ・「おしゃれリテラシー」という用語そのものを教授することよりも、おしゃれリテラシーを涵養することに資する指導に重点をおく。
- ・それぞれの事柄について、児童生徒に関わりの深い身近な話題とともに扱う。
- ・ア) およびイ) については、前稿1で述べたとおりである。特にイ) については、日本の教科書では扱いが不十分であるから(前稿2)、適切な教材で補う。
- ・ウ) について、体型の変化だけでなく、精神的発達やそれぞれの世代をとりまく人間関係の変化などの多様な要因があることを理解させる。
- ・エ) は、特に被服の文明的機能を理解するために必要である。また、文化・社会のあり方と被服との関連を理解することにもつながる。
- ・オ) については、中学校・高校教科書の記述が充実しているので、それをういれればよい。なお、児童生徒の服選びでは、価格が安いことが気にかけることとして比較的上位にあるため(小林ら 2004)、安価なファストファッションのメリット・デメリットを理解させるよう努める。また、エシカルファッションにも必要に応じて言及する。
- ・カ) についても、中学校・高校教科書の記述が充実しているので、それをういれればよい。
- ・キ) について、文部科学省(2016)に示された「情報を見抜き、活用する力」に関連する記述を参照。ファッション雑誌に関する前稿3の知見も教材として活用できる。

学習活動の例

- ・多様な世代のファッション雑誌を比較し、それぞれの世代におけるよそおいの特徴を分析させる。
- ・これまでの学習のまとめとして、お気に入りの被服を長く着るための具体的な方策を考えさせる。

備考

- ・教材作成において参考となりうる文献を以下に示す。
〔c〕70-1：古代から現代までの衣服の歴史が端的にまとめられている。
Cline (2012)：ファストファッションから経済・環境・文化などのさまざまな問題を論じている。
深井 (2009)：ヨーロッパにおける概ね中世以後のファッションについて、絵画を通して論じている。絵画の写真も多数掲載されている。
牛腸 (2011)：放送大学教科書。ファッションが人の心に及ぼす影響(7章)、男性が黒服を着る歴史的経緯(15章)などが参考になる。
Gordon (2012)：日本においてミシンが幅広く普及した歴史を深く考察している。
北山 (1991)：19世紀のパリにおけるよそおいを社会的・文化的観点から論じ、ヨーロッパ近代の被服・身体に関わる規範が形成されていった経緯を明らかにしている。
経済産業省製造産業局 (2016)：日本のアパレル業界における現状と課題が端的にまとめられ

ており、先進的な取り組みも紹介されている。

佐山・大枝（2011）：日本のアパレル業界の概況がコンパクトにまとめられている。

鷺田（2005, 2012）：よそおいに関する鷺田の著作のなかで、比較的読みやすいものである。身体との関係も論究されている。

最後に

本研究では、教養としての被服教育の課題を整理し、新たなあり方としてのおしゃれ教育を提案することを通してそれを現代化する課題に取り組んだ。

『暮らしの手帖』を創刊した花森（1946）は、「私たちの日々の暮らしを、少しでも明るく、愉しくする、そのことを何よりも大切に考えるのが、ほんとうの「おしゃれ」である」（現代表記に一部改変）との言葉を残す。また、そのようなおしゃれこそが「私たちの明日の世界を作る力だ」とも花森は言う。

消費社会のなかで消費者が創造的に振る舞うことができる生活場面が少なくなっているからこそ、これからの被服教育は、児童生徒あるいは私たちがそのようなおしゃれな衣生活を実現するために必要な能力を育成するものでなければならない。たとえ衣生活が既製服に依存する現状でも、おしゃれリテラシーを身につけ、自分らしくコーデすることができれば、そこには創造性が宿り、明るさ・楽しさが生まれるはずである。

本研究の知見がそのような被服教育の実現に貢献することを祈念して、本研究をひとまず終えたい。

（おわり）

付記

本研究には、自らの経験が多分に反映されている。その詳細は省くが、これまで出会ったアパレル販売員の方々からの教示や示唆は、本研究にも活かされている。一人ひとり氏名を挙げることは控えるが、この場を借りて御礼申し上げたい。

引用文献

- Cline, E. L., 2012, *Overdressed: the shockingly high cost of cheap fashion*, New York, NY: Portfolio/Penguin. (= 鈴木素子訳, 2014, 『ファストファッション——クローゼットの中の憂鬱』春秋社.)
- 深井晃子, 2009, 『カラー版 ファッションから名画を読む』(PHP新書), PHP研究所.
- 牛腸ヒロミ編, 2011, 『ものとして, 心としての衣服』放送大学教育振興会.
- Gordon, A., 2012, *Fabricating consumers: the sewing machine in modern Japan*, Berkeley, CA: University of California Press. (= 大島かおり訳, 2013, 『ミシンと日本の近代——消費者の創出』みすず書房.)
- Gunn, T. and Maloney, K., 2007, *Tim Gunn: a guide to quality, taste & style*, New York, NY: Harry N. Abrams. (= 野澤敦子訳, 2011, 『全米No. 1 ファッションアドバイザーが教える誰でも美しくなる10の法則』宝島社.)

- 浜島幸司, 2006, 「若者の道徳意識は衰退したのか」浅野智彦編『検証・若者の変貌——失われた10年の後に』勁草書房, 191-232.
- 花森安治, 1946, 『スタイルブック (1946夏)』衣裳研究所.
- 平良木節・小木ゆみこ・塩田敬子・鈴木頼子・富永日鶴・中村裕美子, 2004, 「パーソナルカラー診断における全国の「フォーシーズン」分布」『日本色彩学会誌』28 (SUPPLEMENT): 6-7.
- 城一夫・渡辺明日香・渡辺直樹, 2014, 『日本のファッション——明治・大正・昭和・平成 (新装改訂版)』青幻舎.
- 経済産業省製造産業局, 2016, 『アパレル・サプライチェーン研究会報告書』, http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/apparel_supply/report_001.html, (2016.6.21).
- 北山晴一, 1991, 『おしゃれの社会史』(朝日選書), 朝日新聞社.
- 北山晴一, 2000, 「なぜ衣服を着るのか」北山晴一・酒井豊子編『現代モード論』放送大学教育振興会, 11-21.
- 小林久美・長山芳子・松園美和, 2004, 「子どもたちは家庭生活で何をしているか 4選ぶ, 決める」, 日本家庭科教育学会編, 『家庭科で育つ子どもたちの力——家庭生活についての全国調査から』明治図書出版, 38-9.
- 三波美夕紀, 2009, 「「お客様は神様です」について」, <http://www.minamiharu.jp/profile/index2.html>, (2016.6.27).
- 文部科学省, 2016, 『いつでもどこでもだれでもできる! 消費者教育のヒント&事例集』, http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/syouthisha/detail/1368878.htm, (2016.6.7).
- 中川早苗・津止登喜江・大喜多佐代子・松浦悠紀子・万江八重子, 1989, 「高校生の服装と被服教育に対する意識に関する一考察 (第3報)」『日本家政学会誌』40(5): 387-94.
- 七江亜紀, 2009, 『働く女性のための色とスタイル教室——幸せを呼ぶ外見のつくり方』講談社.
- 日本石鹼洗剤工業会洗たく科学専門委員会, 2015, 「洗剤使用量に関する意識調査2014 “なぜ洗剤をちょっと減らして洗濯するのか?”」, http://jsda.org/w/01_katud/sentakuchosa2014.html, (2016.6.27).
- 野口深雪・大竹恒平・植竹朋文・岡誠, 2014, 「ファッションにおける買い物の“失敗”軽減サポートシステムの提案」『情報処理学会第76回全国大会講演論文集』(1): 585-6.
- 岡村理栄子編, 2003, 『おしゃれ障害——健康を害する誤った“おしゃれ”に警告 (写真を見ながら学べるビジュアル版 新体と健康シリーズ)』少年写真新聞社.
- 大久保香梨・斉藤ふくみ, 2014, 「小中学生のおしゃれに関する研究——主におしゃれ障害に関して」『茨城大学教育学部紀要 (教育科学)』63: 219-30.
- 澤木祐子, 2013, 『“自分史上最高”の私になる「おしゃれの法則」——表情が変わる, 出会う人が変わる, 人生が変わる!』(王様文庫), 三笠書房.
- 佐山周・大枝一郎, 2011, 『1秒でわかる! アパレル業界ハンドブック』東洋経済新報社.
- 曾根愛, 2014, 『着ていく服が見つからない コーデ苦手女子 応援コミックエッセイ』KADOKAWA/メディアファクトリー.
- 総務省消防庁年少者の防火教育推進方策検討委員会, 1998, 『年少者の防火教育推進方策検討報告書』, http://www.fdma.go.jp/html/new/bouka_edu1.html, (2016.5.26).
- 鳥居志帆, 2012, 『このまま30歳になってもイイですか? (Sanctuary books)』サンクチュアリ出版.
- 鷺田清一, 2005, 『ちぐはぐな身体——ファッションって何?』(ちくま文庫), 筑摩書房.
- 鷺田清一, 2012, 『ひとはなぜ服を着るのか』(ちくま文庫), 筑摩書房.
- 山崎真理子, 2014, 『あなただけの「似合う服」に出会うための骨格診断』すばる舎リンケージ.

(日本の中学校副読本・2014年収集)

教養としての被服教育を現代化するためのおしゃれ教育学（4）

- 〔a〕 正進社『新家庭総合資料』出版年不明.
- 〔b〕 開隆堂『技・家ハンドブック家庭分野』出版年不明.
(日本の高校副読本)
- 〔c〕 東京書籍『新テーマスタディ家庭科』2014年発行.
- 〔d〕 教育図書『データ&グラフ 生活ガイドブック』2015年発行.
- 〔e〕 実教出版『資料 アクティブ家庭科三訂版2014』.
- 〔f〕 実教出版『生活学Navi 2014』.
- 〔g〕 実教出版『高校生のための生活学改訂版』2014年発行.
- 〔h〕 第一学習社『最新生活ハンドブック 2014』.
- 〔i〕 東京法令出版『テーマ別資料家庭科NEO』2015年発行.
(米国の教科書)
- 〔x〕 Chamberlain, V. M., 1990, *Teen guide*, New York, NY: McGraw-Hill.
- 〔y〕 Couch, S., Felstehausen, G. and Hallman, P., 2000, *Skills for life, Student ed.*, Chicago, IL: National Textbook Company.